



川東小だより

第8号

令和5年12月15日

新発田市立

川東小学校

人権週間の取組について

校長 岡崎 功一

今月の4日から10日の期間は、人権週間でした。人権週間は、全国的な取組で川東小学校でも、人権集会を行ったり、人権についての授業を行ったりしました。そして、各学級でいじめや差別をしないように、どんなことに取り組んでいくかについて話し合いました。

いじめの定義は、被害にあった児童が、心や身体に攻撃を受けたことにより身体的、心理的に苦痛を感じたものがいじめであるとされています。ですから、「遊びや冗談のつもり」と、言っても本人が苦痛を感じれば「いじめ」となります。そのようなことを子どもたちに考えてもらうため、人権集会では、次のような話をしました。紹介します。

題 「遊び」

ある日、ぼくは先生によばれた。「遊びでした。」と答えた。でも、そう答えた後に、ぼくは、思った。「遊びって何だろう？」そう考えて、ぼくの顔にうかんだのは、みんなが楽しそうに笑っている顔、みんなで新しいルールを考えたり、新しい遊びを考えたりしている顔、苦手な友だちに教えたり、「がんばってー！」って応援したりしている顔。でも、ぼくの前にあったのは違った。泣いた顔、悲しそうな顔、おこった顔、それにいやな感じの笑い顔、こそこそ話、ひそ話をしている顔

「こんなの遊びじゃない。でも、これって何だろう？」

ぼくは、先生に聞いてみた。

「『悪ふざけ』『いやがらせ』いや『いじめ』かもしれない。」

でも、それを言った先生は、優しい顔をしていた。

「ぼくがしたことは、遊びじゃありませんでした。でも、それが何なのか分かりません。」

先生は、「君がしたことは、」、少し考えてから言った。

「誰でも失敗することはあるよ。きみは、もう自分がしていることが遊びかどうか、自分で分かるようになったね。」

ぼくは、びっくりしたけど、すぐに思った。まず、あやまろう。そして、もっと楽しい遊びを考えよう。



さて、みなさんは、どう感じましたか。どう思いましたか。
みなさんは、自分がしていることが遊びかどうか判断できますか。
「遊び」は、みんなが笑顔になれる遊びになるようにしていきましょう。

このお話のように、自分のしたことで、それを「友達がどう感じるか」思いを巡らせることのできる子どもたちに育ててほしいと思います。もちろん子どもたちは、経験が少ないので、間違えてトラブルになることもあります。そのようなとき、私たち大人は、指導すべきところは指導する一方で、温かい目で見守っていくことが大切だと考えます。そのためにも、学校と保護者の皆さんの連携協力が大切だと考えます。これからもよろしくお願いします。

最後に、2学期も残すところ、あと1週間になりました。2学期も川東小の教育活動にご理解ご協力をいただいたことに感謝申し上げます。間もなく冬休みを迎えますが、子どもたちにとってご家族の皆様にとって、一家団欒のもてる楽しく充実した冬休みなることを祈っています。

少し早いですが、よい年をお迎えください。